

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立常盤高等学校) s 36

目指す学校像	豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストの養成
--------	------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的な学びを促進する魅力ある授業を追求し、授業改善を推進することで、学力の一層の向上を図る。 教職員一丸で社会の変化に対応できる教育活動を実施することで、心身ともにたくましく規律ある生徒を育成する。 看護職への自覚を高めるとともに、看護師としての職業観・倫理観を育成するキャリア教育を推進する。 地域・保護者・関係機関との連携強化と効果的な情報発信により、愛され信頼される学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	14名

学校自己評価		年度目標		年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	<p>現状 ○コロナ禍において、ICT機器活用を推進し、授業改善やオンライン学習を行っている。今年度から一人1台タブレットを導入。新学習指導要領の全面実施は2年目である。 ○臨地実習体制がほぼコロナ前の状況に戻つつある。</p> <p>課題 ○新学習指導要領の円滑な実施 ○一人1台タブレットの円滑な実施等ICT機器の効果的活用 ○ポストコロナにおける病院実習の効果的な指導 ○授業アンケートの実施による授業改善</p>	○育てたい看護師像に向けた学力定着と看護技術向上を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 授業及び実習計画の精選を行い、ICTの活用と応用及び校内実習プログラムの構築の工夫、充実を行う。 ICT機器の活用等や教員研修(対面・オンライン等)により授業力の向上を行う。 授業評価のために授業アンケートを行う。 臨地実習において病院と連携し、学習意欲と看護技術の向上を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 各教科・科目の授業で、シラバスや目標に近づく授業実践ができたか。 ②③ 授業に対する興味関心及び理解度は向上したか。(授業アンケート) ④臨地実習が効果的に実施できたか。 	<p>ICT機器活用を中心とした授業改善を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領実施2年目にあたり、教育課程委員会を中心に円滑な実施に向け検討を行った。 ②今年度より1年生がタブレットを導入し、ICTを活用した授業展開がより一層定着した。 ③授業アンケートを実施した教員もいるが、全教科の授業アンケートの実施はできなかった。 ④臨地実習は、ポストコロナではあるが感染状況が続いており、すべて実施は難しかった。一部を校内代替で実施したが、知識や技術の補完的な学習の場として効果的に行うことができた。 	<p>達成度 B</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度入学生より一人1台タブレットが導入された。引き続き円滑な実施が課題である。 ・ICT機器やオンラインを活用した授業改善が定着している。引き続き工夫と改善を行う必要がある。 ・まだまだ臨地実習の完全実施は難しい。校内実習を上手く活用し、看護師としての実技指導と意識向上の工夫が課題である。 ・授業アンケートを実施し、授業改善に生かすことが課題である。
2	<p>現状 ○多くの生徒は基本的な生活習慣が確立し、落ち着いた学校生活を送っているが、一部の生徒で家庭的な問題等を抱え、支援を必要としている。 ○生徒指導部や各学年を中心に生徒へのさまざまな指導がきている。</p> <p>課題 ○組織的な指導を継続することで日々の生徒の様子を観察し、心のケアに切り組み必要がある。 ○成年年齢引下げに伴う生徒の「自立と自律」を促す指導の工夫が必要である。</p>	○将来の看護師として、健全で社会的な心と態度を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒指導部及び学年団を中心とした適切かつ積極的な声掛けにより生徒理解を深める指導体制を継続して行う。 ②生徒支援委員会をはじめ、家庭及びスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部機関との連携により個に応じた支援を行う。 ③日々の教育活動をはじめ学校行事や部活動及び校外活動を通して生徒の自立性や自律性、積極性、協調性を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①組織的・日常的に生活指導を実施し、生徒の行動が変容したか。 ②外部の専門職との連携や計画的・継続的な指導により、生徒の生活状況や学校生活の満足度は向上したか。 ③ポストコロナで変化のある中、実施時期や規模、内容など効果的に各種行事や部活動の実施ができたか。 ④日々の教育活動において生徒の自立性、自律性を高めることができたか。 	<p>生徒の社会的な心のケアに配慮しながら生徒指導に取組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①登校指導をはじめ、生徒指導部と学年団が連携し、日常的に生活指導を実施した。 ②家庭及びスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒の円滑な学校生活を支援した。 ③生徒支援委員会において情報共有を行い、組織的な対応を行った。また、生徒支援委員会主催の改正生徒指導要領に係る職員研修会を実施し、生徒理解と指導に生かした。 ④ポストコロナにおいて修学旅行や体育祭、文化発表会等の各種行事を効果的に実施することができた。結果、楽しみながら生徒の自律性や協調性を高めることができた。 	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生徒の社会的、自律性を育成することが課題であり、自主性を促す指導が必要である。 ・日々の生徒の変化を観察し、個々の生徒の状況や発達段階に応じた、心のケアや組織的な指導を継続する。 ・SNSの適切な利用の意識づけが課題である。 ・学校行事等、実施時期や規模、内容を見直しながら、より良いあり方を提案する。 ・保護者との連携を一層深める。
3	<p>現状 ○就職試験日程の早期化に伴い、個に応じた指導を行っている。 ○昨年度の看護師国家試験も全員合格であり、合格率は高い水準を保っている。</p> <p>課題 ○看護師国家試験の高い合格率を達成するために、計画的・継続的な指導を実践することが必要である。 ○高校生からの段階的な進路指導体制を整理し、早い段階から自発的・能動的な進路意識を育成することが必要である。</p>	○目指す看護師像の追求及び看護師国家試験合格を目指す。	<ol style="list-style-type: none"> ①進路の手引きの見直しを図り、進路ガイダンスを実施することで、低学年から進路情報を提供する。 ②キャリアプロジェクトにてポートフォリオを作成し、「なりたい看護師像」の自己形成を支援する。 ③ポストコロナの状況により効果的な病院説明会や進路講話、修了生懇談会等を行い、生徒の進路希望実現を支援する。 ④看護専攻及び進路指導部と学年が連携し、看護師国家試験対策及び進学対策を組織的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①効果的な進路行事を提供することができたか。 ②キャリアポートフォリオを作成することができたか。 ③生徒の進路希望が実現できたか。 ④高い看護師国家試験合格率を達成できたか。 ⑤進学希望者の進学が実現できたか。 	<p>進路の手引きを活用し、看護士の低学年から進路情報を提供し、進路意識の向上を図った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①低学年においてマナー教室、文章の書き方等の講座を実施。 ②各学年でキャリアプロジェクトを作成し、「なりたい看護師像」の自己形成を支援した。 ③就職58名、進学13名とほぼ希望どおりの進路に決定した。 ④今年度も個別に面接・履歴書指導などを行い就職希望者は全員内定することができた。また、現在看護師国家試験全員合格に向けて指導している。 ⑤進学希望生徒対象に受験指導を行い、希望者全員が大学への編入が決定した。(埼玉県立大3名、女子栄養大3名、浜松医科大学1名) 	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き高校生や専攻科1年生からの早い段階から進路意識を醸成させ、働きたい病院や進学先を見つけていく。 ・キャリアポートフォリオを作成し、なりたい看護師像を自己形成する。 ・卒業生や外部講師などを活用し、ロールモデルを効果的に提示する。
4	<p>現状 ○連携病院や大学並びに保護者の協力により、専門性の高い教育活動が推進されている。 ○県内各地から、看護師を目指す生徒が集まってきたが、昨年度は倍率が1.02倍と前年度より志願者が減少した。</p> <p>課題 ○ホームページ・学校説明会・高大連携等を積極的に活用し、保護者・地域・関係機関との連携強化や本校への理解を深める。 ○医療機関及び大学、地域や保護者と連携し、よりよい情報交換を行うことで課題を発見し、教育活動を改善することが必要である。さらに生徒の社会性を育てる機会とすることも必要である。</p>	○情報機器等の活用や学校説明会等において本校理解の地場の工夫改善を行い、保護者・地域・関係機関との連携強化を促進させる。	<ol style="list-style-type: none"> ①学校説明会の工夫と外部向けイベント(彰の国進学フェア、産業教育フェア等)への積極的な参加により、本校の魅力を発信する。 ②客観的評価や課題解決のため保護者アンケートを行う。 ③学校ホームページ(常盤ブログ等)更新や一斉メールの活用により、保護者への情報発信頻度を高める。 ④生徒が外部との情報交換を通して、社会性を高めることができたか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校説明会・体験入学の参加者を増やさせ、志願者数は増加したか。 ②本校の現状と課題を把握し、改善策を考察することができたか。(保護者アンケート) ③ホームページのアクセス数は増加したか。 ④学校ホームページ(常盤ブログ等)更新や一斉メールの活用により、保護者への情報発信頻度を高める。 ⑤生徒が外部との情報交換を通して、社会性を高めることができたか。 	<p>学校ホームページ等を活用し、本校の教育活動や学校説明会の案内など積極的に情報発信を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①彰の国進学フェアで多くの生徒・保護者にPR。学校説明会(8月2回、11月1回)は計3回実施し、206名参加(昨年度114名)。体験入学(9月)は中が80名参加(昨年度60名)で参加者数が増加。中1、2年生を含めると100名参加。12月15日現在の倍率は1.16倍で昨年同率倍率(1.04倍)より高くなっている。埼玉産業教育フェアで生徒による体験講座を実施。 ②保護者アンケート結果は本校への満足度86.7%(昨年度91.3%)と微減。指摘事項の検討、改善が課題。 ③常盤ブログや校長ブログなどほぼ毎日更新。 ④修学旅行や緊急の連絡等一斉メールを臨機応変に活用し、保護者への情報発信の頻度を高めた。 ⑤コロナ禍以降、初めて文化発表会・体育祭において希望する保護者の観覧が可能となった。 ⑥県教委の事業を活用し、日本薬科大、女子栄養大等を訪問。高度な知識、技術を学び視野を広げた。 ⑦地域の高齢者との交流会を実施。生徒のコミュニケーション力や社会性を高めるよい機会となった。 	<p>達成度 A</p> <p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の志願者数増加の要因を分析し、さらに積極的に本校の情報発信を行い、本校の魅力アピールする。 ・保護者からの意見を教育活動の改善に生かす。 ・継続して、生徒の活躍を外部に情報発信することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに本校の魅力アピールする。 ・引き続き、県教委の事業を活用し、外部との情報交換の機会を与えることで社会性を身につける。

学校関係者評価
実施日 令和6年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>・ICTを幅広く活用した授業により成果が表れていることが素晴らしいと思う。また、ポートフォリオの活用は生徒自身の成長が可視化でき、今後も継続されることを期待する。</p> <p>・高校でも一人1台タブレットが導入されたことはとてもよかった。中学生時にタブレットが手元にあることが普通であった生徒たちであるので、ICTの活用に係るスキルはかなり高いものと考えられる。</p> <p>・授業アンケートを効果的に活用しながら、生徒たちの思考・判断・表現の力を伸ばせられることを期待する。</p> <p>・コロナ禍でのオンライン授業の経験(システム)を生かして、天候やインフルエンザの流行等、通学に時間がかかる生徒が多い現状を鑑み、積極的に活用してほしい。</p> <p>・「生徒指導ガイド」に基づく指導の統一を実践されているとのこと、生徒側も混乱なく納得のいく指導につながると思う。</p> <p>・自分のスマートフォンが利用できるようになったことだったので、ぜひ情報モラルを含め適切なSNS等の使い方についての指導をお願いしたい。</p> <p>・生徒アンケートがなかったことで生徒全体の思いや考え方の傾向が知られないなど思った。</p> <p>・学年で3年間10人程度の生徒が辞めている。折角入学してきた卒業生が体面ない気がする。未来に希望をもって最後まで挑戦していけるような環境(バックアップ態勢)を作っていくしてほしい。</p> <p>・生徒会長の意見発表には力強さを感じ生徒の皆さんが一丸となって前進する気概を感じる。心より応援する。</p>
<p>・継続的な進路指導が行われていることにより、素晴らしい進路実績につながっていると思った。今後生徒一人一人の思いや考えを大切に指導ください。</p> <p>・夢と希望を持ち続けられるよう、苦勞を乗り越えていこうとする意欲を充実させ、決して挫折することなく進んでいけるよう生徒に寄り添っていただけたらと思う。多感な時代なので難しいことかもしれないと思うが、先生方にはこれまでのように頑張ってください。</p> <p>・進路選択にあたり、生徒側立ち、進路の選択肢が広がる工夫がなされていると思う。たとえば、進路講話はもとより、高大連携、各種講演会の開催など。</p>
<p>・学校としてのPRが欲しい気がする。献血車が駐車場にきて地域の人が入ってきたり、文化祭を地域の人に紹介、招待したり、健康に関するイベント(医療系の企画イベント等)を実施し、保護者の方の意見を把握できることは言うまでもないが、意識を高めていただく効果も期待できる。専門職の育成には学校教育の力とともに生徒を支える社会的にも大きいと考える。</p> <p>・保護者アンケートの結果より、全体的に高い評価を得ていること、学校行事が若干他より肯定的な回答が下がっていること分析等をしてみてよいかと思った。地域との連携については、コロナの5種移行にもなったことでも世代を問わずいろいろな方々と交流できる機会があるといいと感じる。</p>